

令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 安芸高田市立甲田小学校 藤光 優
第3学年 30名

1 単元名「生き物のひみつ」をまとめよう

「ありの行列」（光村図書「国語 三下 あおぞら」）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第3学年及び第4学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと（1）ウの指導事項「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。」及びオの指導事項「文章を読んで理解したことに基づいて、考えや感想をもつこと。」を受けて設定している。

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する力を育成するためには、教材文から中心となる語や文を見付け、目的に応じて付け加えたり削ったりすることが必要となる。また、文章を読んで理解したことに基づいて、考えや感想をもつ力を育成するためには、教材文を正しく理解したり、他の生き物の生きる工夫を知ったりした上で、児童の既存の知識や経験を結び付けて自分の考えをまとめることが必要となる。

本単元で扱う教材文「ありの行列」は、なぜありの行列ができるのかについて、実験や研究を通して明らかになったことが書かれた説明的な文章である。ありという児童にとって身近な生き物がなぜ行列をつくることができるのか、改めて考えたことがないであろうことを知ることで、生き物の生態についての感想をもったり、更に知りたいことを見いだしたりすることに適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、文学的な文章「ちいちゃんのかげおくり」を読む学習において、約80%の児童が文章を読んで理解したことに基づいて、考えや感想をもつことができた。児童に行ったアンケートによると、文章を読み、自分の考えや感想をもつことが苦手だと自覚している児童が約73%いた。考えや感想をもつことができなかつた児童や苦手だと感じている児童は、文章に自分の考えをどう書いていいのかわからなかつたり、そもそも文章を読んでも自分の思いや考えをもてなかつたりした。さらに、自分の経験と結び付けることに難しさを感じている児童も見られた。これは、「考えの形成」の過程に至るまでに、文章の内容を既存の知識や経験と結び付け、自分ごととして理解することに課題があると考えられる。本単元では、文学的な文章ではなく、説明的な文章を扱うため、さらに難しさを感じる児童が多いことが想定される。

また、説明的な文章「こまを楽しむ」を読む学習では、段落相互の関係を理解し、中心となる語を抜き出して要約する活動を行った。形式段落に分け、それぞれの段落に書いてあったことや、段落相互の関係について大まかに理解することはできた。しかし、言葉の意味を正しく捉えていない児童も多いことが分かった。また、教科書の言葉をそのまま抜き出す児童も多く、何のために要約するのかを意識したり、要約することで得られる利点を実感したりするには至っていない。

(3) 指導観

指導に当たっては、学習したことを2年生に伝えるという目的を明確にして学習を進めることができるようにする。文章の内容を正確に理解できるように、ありが行列を作る様子を動画で見たり、言葉の意味を国語辞典で調べたりしながら文章を読んでいく。また、生き物の本を用意したり考え聞かせを行ったりすることで、ほかの生き物とありを比べて、生き物はいろいろな生きる工夫があることに気付けるようにする。また、目的をもって要約することができるように、「生き物のひみつ」を2年生に伝えようと相手を明確にして学習を進める。児童がスモールステップで要約することができるように、段落ごとに中心となる語や文をもとに、段落ごとの要点をまとめる活動を行う。「生き物のひみつ」に要約する際には、文字数を120字に設定し、言葉を付け加えたり削ったりするなどして、相手意識をもって分かりやすく要約できるようにする。さらに、自分の考えを形成することに苦手意識がある児童がいるため、まとめる前には学習して理解したことや、ほかの生き物と比べて分かったことなど、全体で話し合うことで、自分の思いをもつことができるようにしていく。

3 単元の目標

- 段落の役割について理解することができる。 [知識及び技能] (1) カ
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 段落の役割について理解している。((1) カ)	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C (1) ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C (1) オ)	① 進んで、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って、分かったことや考えたことについて文章にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】 (評価方法)	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	<p>段落の役割について理解している。((1) カ)</p> <p>(ノート)</p> <p>○形式段落に小見出しを付けたり、接続する語句に着目したりすることで、段落の役割を理解しているかの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 段落 問い ・ 2 段落 具体例 実験① ・ 3 段落 ↓ ・ 4 段落 具体例 実験② ・ 5 段落 ↓ ・ 6 段落 具体例 研究 ・ 7 段落 分かったこと ・ 8 段落 ↓ ・ 9 段落 答え <p>○形式段落ごとの内容を理解させた上で、意味段落ごとに、どのような事柄が説明されているのかを自分の言葉で再整理させる。</p> <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめ (問い) なぜ、ものがよく見えないありが行列を作るのか。 ・中 (具体例) 実験 1 実験 2 研究 分かったこと ・終わり (答え) において道しるべをつけて、そのにおいをたどるから行列ができる。 	<p>○ 段落の役割が分かるように、段落に書かれている内容を簡潔に書き表したり言葉を書き込んだりしながら段落の役割が理解できるようにする。</p> <p>○ 形式段落ごとに小見出しを付けたり、接続する語句を見付ける活動を小グループで行い、全体で話し合ったのち、改めて自分のノートに段落の役割について理解したことを整理させる、というステップを踏ませることで、確実に段落の役割が理解できるようにする。</p>

<p>思考・判断・表現①</p>	<p>「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (C (1)ウ)</p>	<p>(ノート・ワークシート)</p> <p>○教材文の中心となる語や文を見つけて、なぜ、ものがよく見えないありが、行列をつくることのできるのかについて、正しく要約できているかどうかをノートやワークシートの記述の内容から評価する。また、2年生が読んですぐに内容が分かるように120字程度でまとめる、という要約の目的を意識して、必要な語や文を見付けさせる。</p> <p>【「おおむね満足できる」状況(B)の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありは、えさを見つけると、道しるべとして地面においのあるえきをつけます。ほかのありたちは、このおいをたどってえさのところへ行ったり、巣へ帰ったりするので、ものがあまり見えないありでも、ありの巣からえさのあるところまで、行列ができるというわけです。(125字) 	<p>○ 問いと答えや、ウイルソンの実験を時系列で整理したり、書く前にどんなことが分かったのか、どんなことが書いてあったのかなどについて児童同士や当該児童と話したりすることで、中心となる語や文を見付けられるようにする。</p>
<p>思考・判断・表現②</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C (1)オ)</p>	<p>○これまでの学習と、既習の内容(生き物のひみつ)を結び付けてもった自分の感想や考えをワークシートの記述の内容から評価する。</p> <p>【「おおむね満足できる」状況(B)の例】(ありの行列)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの生き物のひみつを知って、生き物のひみつは生きるためなんだと分かりました。(理解を深めたこと) ありはものがよく見えません。だからありは、えさを見つけると、おしりからおいのあるえきを出して、仲間知らせます。それをたどると、巣に戻ったり、えさのところへ行ったりできます。そうやって、えさを食べて生きていくことができます。(理解したこと) (C (1)ウ) さばくでくらすらくだの鼻は砂が入らないように、閉じることができるそうです。(児童の知識や経験) 生き物には、ごはんを食べたり、住んでいる場所に合わせたりして生きるためにひみつがあるんだなと分かりました。(文章を読んで理解したことと自分の体験や既習の内容と結び付けて深めた理解) わたしは、ほかの動物にもひみつがあると思います。どんなひみつがあって、それは人間にできるのかも調べてみたいと思います。(自分の考えや感想) 	<p>○ 「児童の知識や経験」や「文章を読んで理解したことと自分の体験や既習の内容と結び付けて深めた理解」の部分は、第2学年の生活科で昆虫などを観察したり観察したりした際に、生き物がくらす場所はえさの近くや隠れやすいところであったことを想起させ、自分が選んだ生き物とつなげながら考えさせる。</p> <p>○ 「自分の考えや感想」の部分は、これまで記述してきたワークシートやノートを見返して、分かったことや驚いたことなど、児童の気持ちに気付かせ、感想や考えを書くことができるように促す。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>進んで目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、まとめようとしている。</p>	<p>○学習課題に沿って、目的を意識して、中心となる語や文を見付けたり、要約しようとノートやワークシートに書き込んだりする様子を評価する。</p> <p>【「おおむね満足できる」状況(B)の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に沿って、教材文の中心となる語や文に線を引くなどし、目的に合わせて言葉を削ったり付け足したりしながらまとめている。 	<p>○友達の考えを書き込んでもよいことを伝えたり、要約する目的を再確認し、そのためにはどんな言葉が必要かを一緒に考えたりする。</p>

5 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・ありが行列になっている動画を見せ、イメージをもたせる。 ・ありがの行列ができる理由を予想する。 ・範読を聞き、思ったことや感じたことなど、初発の感想を書き、伝え合う。				
	2	・学習課題を確認する。				
二	3	○ありがの行列ができる理由について、文章を読んで整理する。				
	4	・形式段落に分ける。				
	5	・段落の大切な言葉や文を見付けながら全体の内容を捉える。 ・意味段落に分ける。 ・「問い」と「答え」を見付ける。	○			[知識・技能①] <u>ノート</u> ・段落の内容に着目し、段落の役割について理解しているかの確認
6	・ありがの行列ができる理由を要約する。		○		[思考・判断・表現①] <u>ノート・ワークシート</u> ・ありがのひみつが伝わるように、中心となる語や文を見付け出し、要約してワークシートにまとめているかの確認 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>児童の様子</u> ・中心となる語や文を見付けて要約し、ワークシートにまとめようとしているかの確認	
7	○教材を読んだことに基づいて感じたことや考えたことをもとに、生き物のひみつについてまとめる。					
8	・自分が選んだ生き物のひみつについてワークシートにまとめる。					
9 (本時)	・生き物のすごいところについて、自分の考えをまとめる。		○		[思考・判断・表現②] <u>ワークシート</u> ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の体験や既習内容と結び付けて自分の考えを記述しているかの確認	
10	・生き物のひみつを友達と伝え合う。					
三	11	○学習の振り返りをする。 ・学習を振り返り、初読の感想と第9時でまとめた文章とを比べて、生き物のひみつについて考えたことや身に付いた力、友達と交流し合っ感じたことなどについて整理する。				

6 本時の学習

(1) 本時の目標

生き物のひみつについて、自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を確かめ、見通しをもって学習ができるようにする。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「生き物のひみつ」について、自分の考えをまとめよう。</div>			
<p>2 「あり」や「自分が伝えたい生き物」のひみつを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あり…目が見えにくいから、おしりからにおいのあるえきを出している。 ・らくだ…耳に砂が入らないようにするために、耳をとることができる。 <p>3 生き物の体にひみつがある理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物って・・・ () ためにひみつがあります。 ・命を守るためにひみつがあります。 ・生きていくためにひみつがあります。 ・それくらい（それほど）・・・ () からです。 ・えさをとることができない。 ・生きていくのが大変なところに住んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が2つの生き物を比べることができるように、教材の大まかな内容を押さえるとともに、自分が選んだ生き物の特徴を確認する。 ・教材と自分が選んだ生き物を比べ、生き物は生きるために工夫していることに気づくことができるように、生き物にひみつがある理由について考え、まとめる。 	<p>○文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の考えを記述している。(ワークシート)</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">生き物は () のためにひみつがある。</div>			
4 自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたことを、ワークシートにまとめる。 ◆考えをもつことができるように、板書から自分の思いに近いものを選んで書くようにする。 		
5 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 		

(3) 板書計画

<p>㊦ 生き物は、（ ） ためにひみつがある。</p>	<p>・えさをとることができないから。 ・生きていくのが大へんだから。</p>	<p>それくらい・・・</p>	<p>それほど・・・</p>	<p>なぜ生き物には、ひみつがあるのだろう。</p>	<p>生き物 ・他の生き物のひみつ</p>	<p>あり ・ありは、目があまり見えないからおしりからのおいのあるえきをだしている。</p>	<p>㊦ 「生き物のすごい○○」について、自分の考えをまとめよう。</p>	<p>ありの行列 大たき てつや</p>
------------------------------	---	-----------------	----------------	----------------------------	---------------------------	--	---------------------------------------	--------------------------

7 指導の実際

(1) 指導上の工夫

【第一次】

- ・ 教材文を読み、思ったことや考えたことから単元のゴールを設定した。（写真1）
- ・ 単元のゴール「生き物のひみつを二年生に伝えよう」「ほかの生きもののひみつをみつけよう」を達成するために、どんな学習をするとよいのかについて、グループで考えを出し合った。（写真2）その後、みんなで出た考えを整理し、単元計画を作成することで、見通しをもって進めることができるようにした。（写真3）

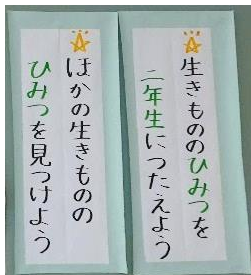


写真1 単元のゴールを設定

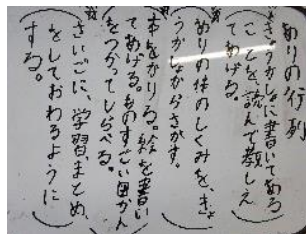


写真2 グループで書き出したボード



写真3 単元計画

【第二次】

- ・ 意味段落に分けるとときには、大切な言葉や文を付箋に書き出しながら教科書を読むことで、教材や段落の大まかな内容を捉えることができるようにした（写真3 4 5）。さらに、要約する時には、この付箋を活用し、大切な言葉や文を選び、付箋の言葉に付け加えたり削ったりできるようにした（写真6）。
- ・ ライオンやカメレオンなど、子ども達が本で生き物のひみつについて並行読書ができる環境作りをした。（写真7）また、「どうぶつの耳」（「どうぶつの中から④ どうぶつの耳」監修：増井 光子 出版社：偕成社）の考え聞かせを行い、「何の耳かな?」「どんな耳かな?」など問うことで、動物のひみつについて興味をもたせるとともに、並行読書をする際に何に注目して読むとよいのか視点を明確にすることができた。



写真3 大切な言葉を
書き出した付箋

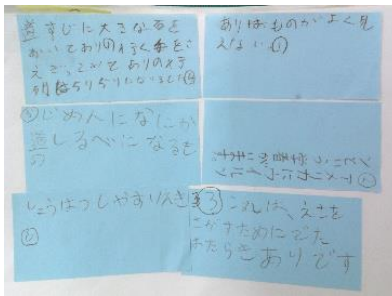


写真4 大切な言葉を
書き出した付箋

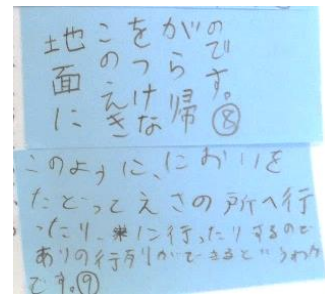


写真5 大切な言葉を
書き出した付箋



写真6 教材文を要約している
様子



写真7 並行読書コーナー

【第三次】

- 2年生に生き物のひみつを発表した。2年生の姿を見ながら発表することで、生き物のひみつについて文章には書いていないことを付け加えて発表する姿が見られた。(写真6・7)



写真6 2年生に生き物のひみつを紹介する様子



写真7 2年生に生き物のひみつを紹介する様子

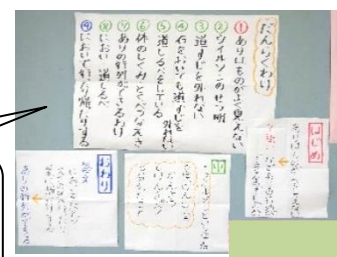
(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

- 教材文を意味段落に分け、全体の内容を大まかに捉えた後、それぞれの段落の役割について考えた。その際、「問い」や「答え」、「実験」などを正しく理解できない児童がいた。そのため、これまで学習をしたことを振り返りながら、「はじめ・中・終わりに分けてみよう。」「なぜ、そう分けたのですか。」などのように、書いてあることを整理することができる発問をすることで、グループで話し合いながら考えられるようにした。



グループでまずは「はじめ」
「中」「おわり」に分けた。

その後、それぞれの意味段落には
何が書いてあったのかを考えた。
(まとめたものを掲示)



- ・ ありの行列ができる理由について、ほとんどの児童が正しく表現することができた。しかし、それを文章に書くことができない児童がいた。大切な言葉や文を選び、書き出した付箋を振り返り、どの言葉が必要なのかを付箋から選び、それを文章にしていくように工夫した。選び出す際には、要約する目的を確認し、2年生に動物のひみつが伝わるようにするための文章を書くことを意識させた。



要約をする前に大切な言葉や文を選び出し、付箋に書き、教材文に貼った。

要約する際に、付箋を見返し、必要な付箋を選び出した。

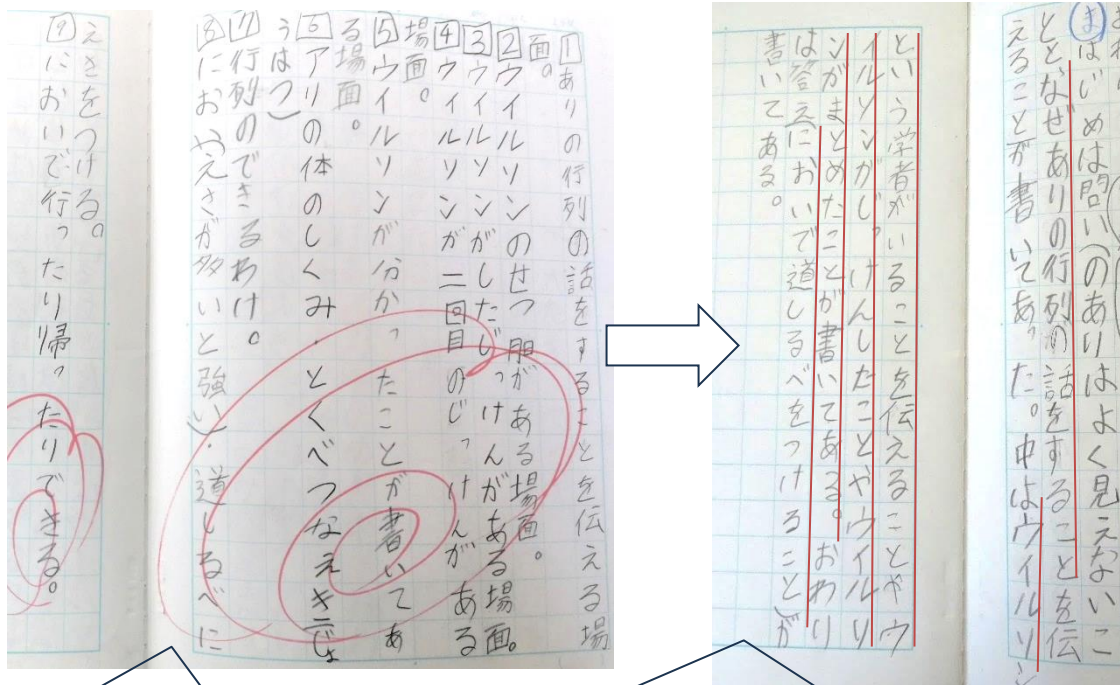
8 評価の実際

(1) 評価の具体

【ア 知識・技能】

(A) 「十分満足できる」状況

いくつかの形式段落がまとまって意味段落を形成していることを理解するとともに、形式段落の内容を踏まえて意味段落の「はじめ」「中」「終わり」の内容を、形式段落ごとに整理した内容だけでなく、教材文の内容を適宜補いながら、文や文章で整理している。



形式段落ごとに何が書かれているのかについて小グループで整理したノート

小グループでの整理、全体での内容確認の後、再度自分の言葉でまとめたノート

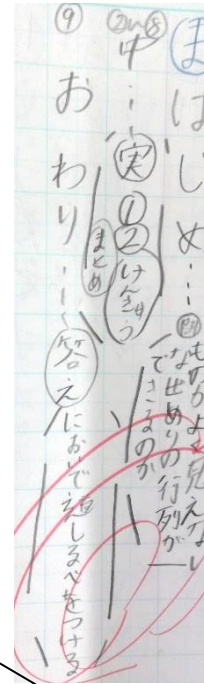
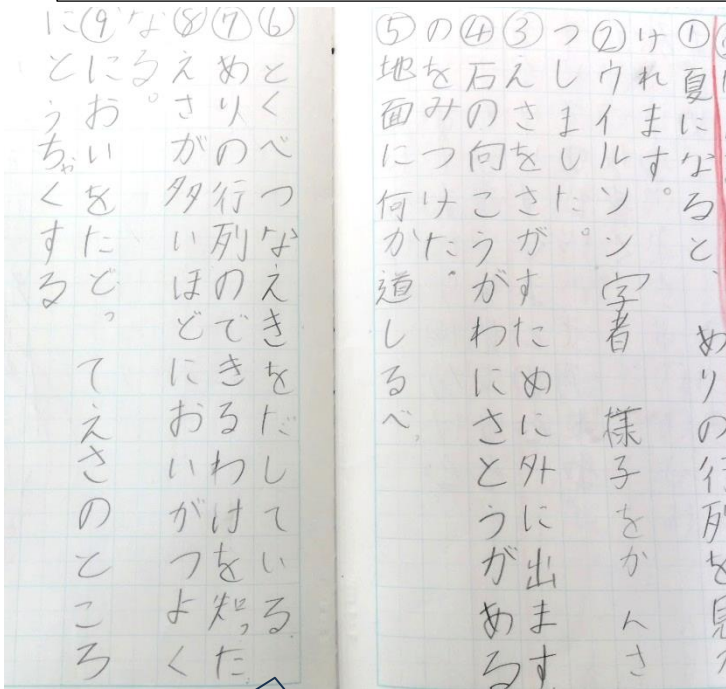
はじめ・・・問い (ありはものがよく見えないこと・なぜありの行列ができるかの話をする)

中・・・ウイルソンという学者がいること
ウイルソンが実験したことやまとめたこと

おわり・・・答え (において道しるべをつけること)

(B) 「おおむね満足できる」状況

いくつかの形式段落がまとまって意味段落を形成していることを理解するとともに、形式段落の内容を踏まえて意味段落の「はじめ」「中」「終わり」の内容を短文や単語で整理している。



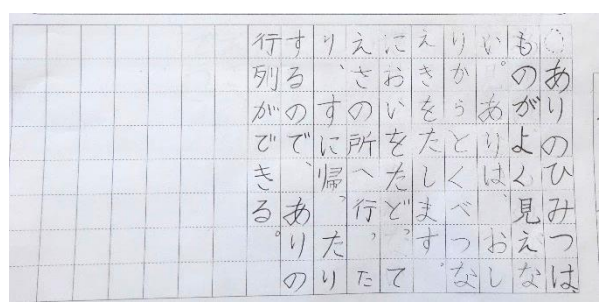
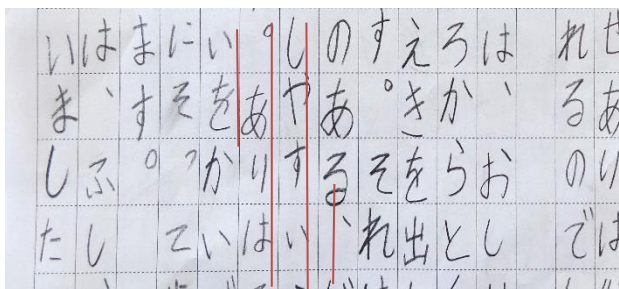
形式段落ごとに何が書かれているのかについて小グループで整理したノート

全体で確認した後、自分の言葉でまとめた。
 ①はじめ・・・問 ものがよく見えない
 なぜありの行列ができるのか
 ②～⑧中・・・①②実験
 けんきゅう まとめ
 ⑨おわり・・・答え においで道しるべをつける

【イ 思考・判断・表現①】

(A) 「十分満足できる」状況
 目的を意識して、ありの行列ができるわけについて正しく要約している。また、どのようなえきなのかなどにつて、くわしく書いている。

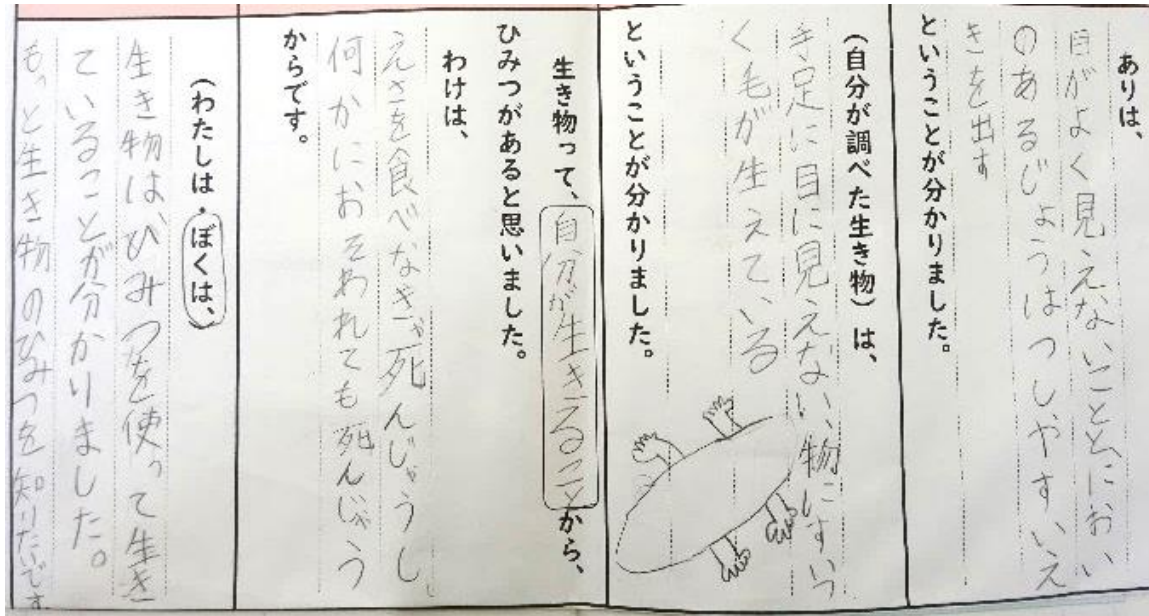
(B) 「おおむね満足できる」状況
 目的を意識して、ありの行列ができるわけについて正しく要約している。



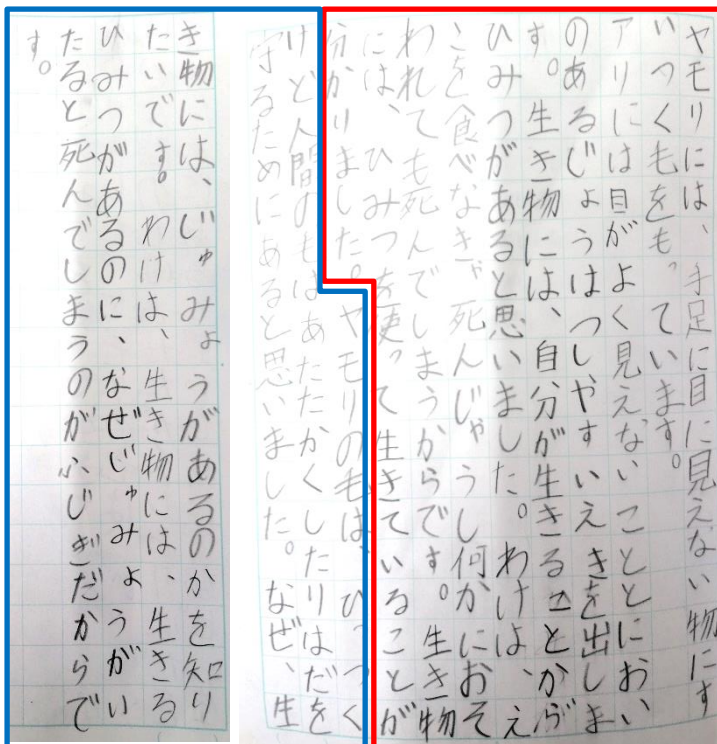
【イ 思考・判断・表現②】

(A) 「十分満足できる」状況

これまでの学習と、既習の内容（生き物のひみつ）を結び付けてもった自分の感想を表現している。また、学習したことを振り返り、今後取り組んでみたいことについて書いている。



自分の考えをもつために、学習したことや自分が調べたことなどについて考えを出し、それをもとにノートにまとめた。



学習したことと既習したことを比較しながら考え、理解したことをもとに、自分の考えと、なぜ、そのように考えたのかについて書いている。

(自分の考え)

自分が生きることからひみつがあるのだと思いました。

(理由)

えさを食べなきゃ死んじゃうし、何かにおそわれても死んでしまうからです。

自分が新たに気付いたことをもとに、新たな考えを2つ以上見出している。

(新たな考え①)

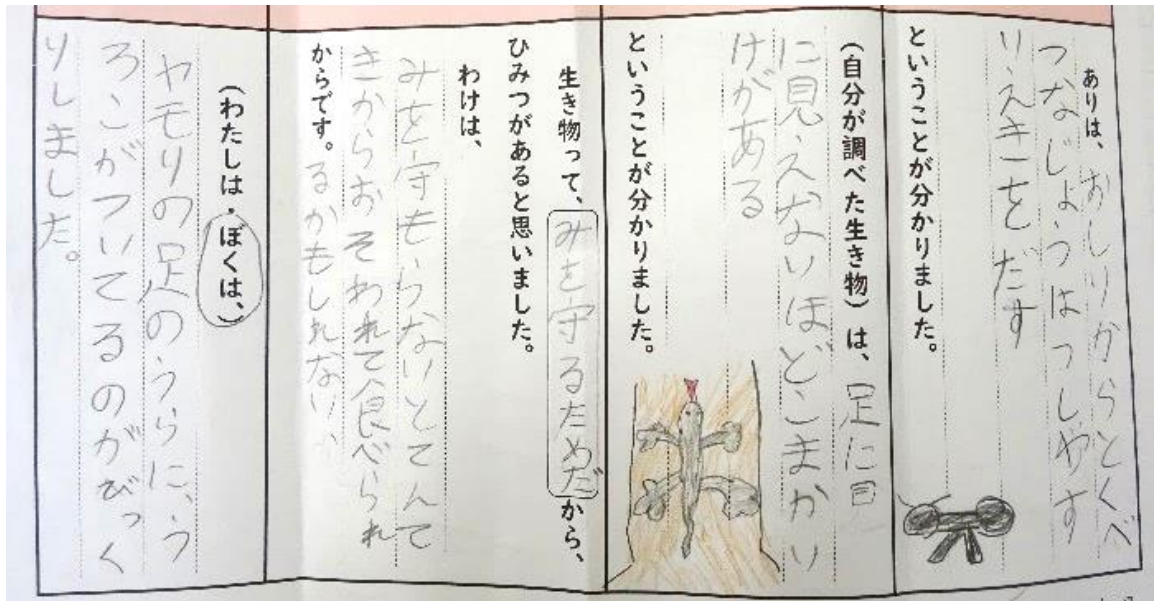
ヤモリの毛は、ひつつくけど、人間の毛はあたたかくしたり、はだを守ったりするためにあるのだと思いました。

(新たな考え②)

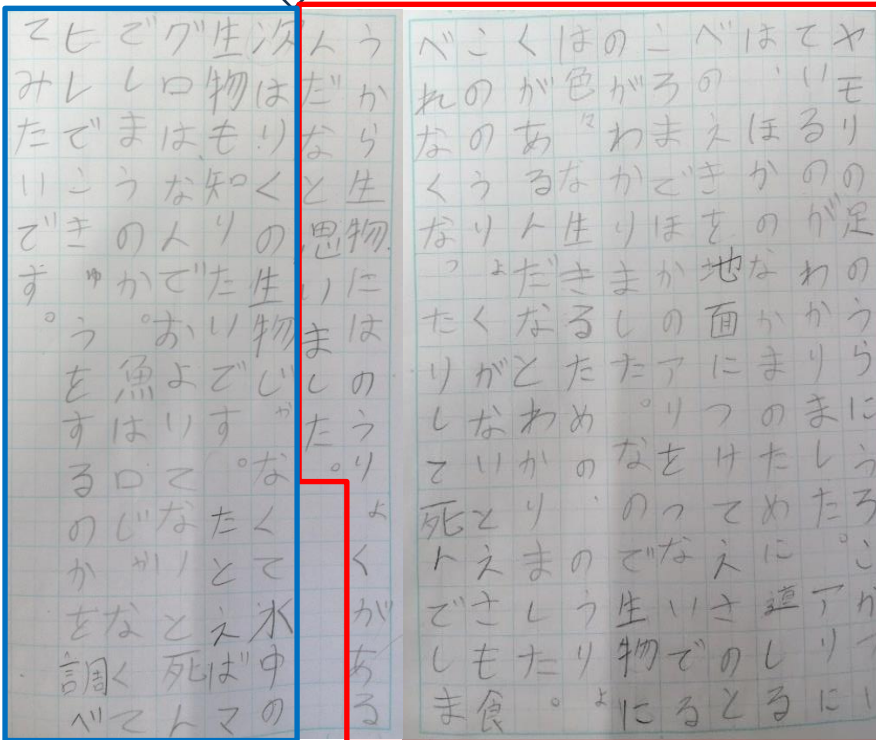
なぜ生き物がには、じゅみょうがあるのかを知りたいです。わけは、生き物には、生きるひみつがあるのに、死んでしまうのがふしぎだからです。

(B) 「おおむね満足できる」状況

これまでの学習と、既習の内容（生き物のひみつ）を結び付けてもった自分の考えを書いている。



自分の考えをもつために、学習したことや自分が調べたことなどについて考えを出し、それをもとにノートにまとめた。



学習したことと既習したことを比較しながら考え、理解したことをもとに、自分の考えと、なぜ、そのように考えたのかについて書いている。

(自分の考え)

生き物には生きるためののうりよくがあるんだと分かりました。

(理由)

こののうりよくがないとえさも食べれなくなって死んでしまうから生き物にはのうりよくがあると思いました。

自分が新たに気付いたことをもとに、新たな考えを1つ見出している。

(新たな考え)

次はりくの生き物じゃなくて水中の生き物も知りたいです。たとえばマグロはなんでおよいでないと新でしまうのか。魚は口じゃなくてひれでこきゅうをするのかを調べてみたいです。

【ウ 主体的に学習に取り組む態度】

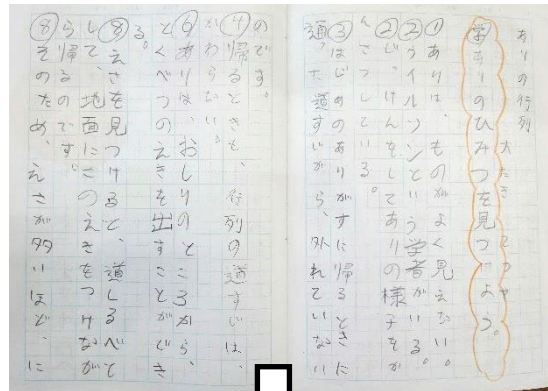
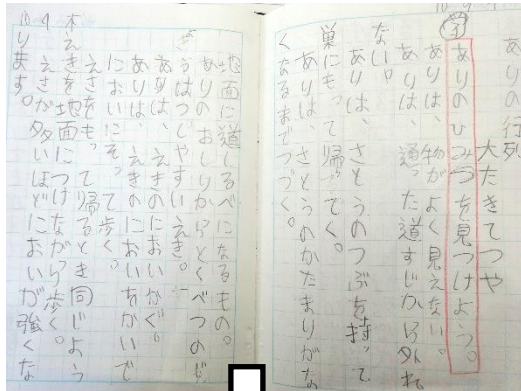
(A) 「十分満足できる」状況

学習課題に沿って、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、要約しようとしている。また、言葉を付け加えながら、まとめようとしている。

(B) 「おおむね満足できる」状況

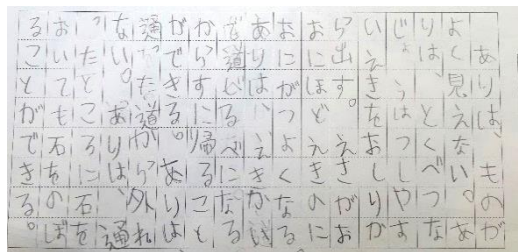
学習課題に沿って、目的を意識して、中心となる語や文を見付けたり、要約しようとしていたりしている。

これまでにグループで書き出していた付箋をもとにして書き出した児童もいたが、それだけでは分かりにくく、要約することはできないと考え、児童自ら形式段落ごとにポイントを書き出してしている。

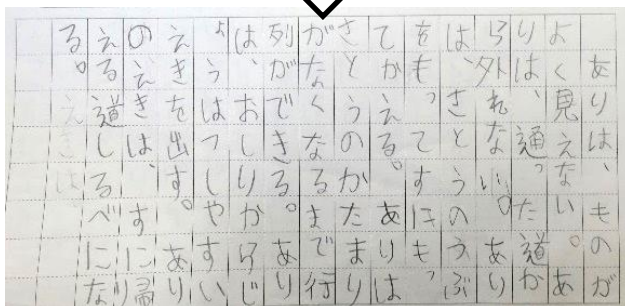
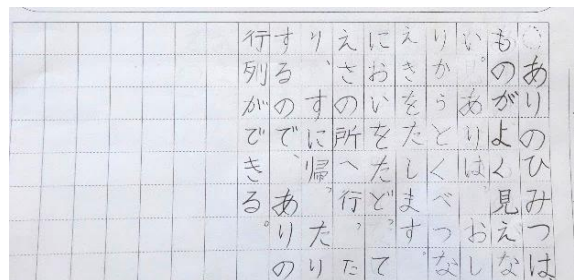


ノートに書いたことや、これまでの学習で付箋に書き出したことを使って、条件に合うように自分で考えて要約をした。

ノートに書き出したことを、どのように要約をすればよいのか分からず、友達に聞いている姿が見られた。友達から、「ありには、なぜひみつがあるのか」「どんなひみつがあるのか」について聞かれ、それについて要約した。書いたものを友達と読み合い、正しく書かれているのかを確かめていた。



自分で要約したものと友達に要約したものを読み比べ、分かりにくいと感じた児童は、初めに要約した文章を見直していた。そして、言葉の順番を変えたり、必要な言葉をもう一度考えたりする必要があると感じた。そのため、再度、自分が書いた要約や大切な言葉や文を書き出したノートを見て、書き直しをした。



(2) 児童の評価

評価	評価規準	A	B	C
知識・技能	① 段落の役割について理解している。 ((1) カ)	3人	21人	3人
思考・判断・表現	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C (1) ウ)	4人	20人	5人
	② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C (1) オ)	2人	22人	5人
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って、分かったことや考えたことについて文章にまとめようとしている。	4人	23人	2人

9 成果と課題

(1) 成果

- 単元のゴールを「2年生に生き物のひみつを伝えよう」と明確にすることで、目的をもって意欲的に学習に取り組むことができた。要約をする時には、「この言葉は分からないかな。」「漢字が読めないかもしれないから読み仮名を書こう。」など、相手意識をもっている姿が見られた。また、生き物のひみつを紹介するために、自分で調べるうちに知らなかった動物のひみつに興味をもち、自分から進んで本を読んでいる児童が多くいた。
- 児童の既習や体験と結び付けて自分の考えを形成するために、並行読書を行った。生き物についての知識が少なかった児童も、本を読むことで知識を身に付け、教材文を読んで理解したと結び付けて考えをもつことができた。
- 教材文を要約する際、大切な言葉や文に線を引くのではなく、付箋に書き出したことで、必要な言葉や文を焦点化することができた。それによって、児童が要約する時にも、付箋を選んだり、組み合わせたりすることで、苦手な児童も書くことを整理することにつながった。

(2) 課題

- 目的を意識して、要約することができなかつた児童の中には、実験の手順を書いている児童や、1～9段落の内容をすべて書いている児童がいた。何を書けばよいのか、見通しをもって書くことができるように、目的（生き物のひみつを2年生に伝えよう）を確認し、そのためにはどんな文や言葉を入れると良いのかを確かめる必要があった。
- 教材文で学習したこと、自分の調べたことを結び付けて考えることができなかった児童がいた。結び付けるためには、同じところや違うところに着目して比較する発問ではなく、「なぜ、生き物にはひみつがあるのか」と発問することで、理由を聞く必要があった。目的を達成するための発問、そして、児童が考えたいと思う発問になるように考えていきたい。

(3) 今後に向けて

- 単元計画をする際、児童が学習を終えた時に、どのようなことが分かったのか、難しかったのかなどについて評価規準を児童が振り返ることができるようにするために、どんな学習をすればよいのか明確にすることが必要だと感じた。そのためには、児童が考えたいと思えるように、発問を工夫したり、授業の構成を考えたりすることで、児童が自分の学習がどうであったのかを主体的に振り返ることができるようにする必要がある。
- 考えを形成し、表現させる際、教材文や並行読書した図書を見返すことなく、児童の頭の中にある文章の内容や印象のみで書いている児童が多かった。しかし、文章を読んで理解したことに基づいて考えを形成するためには、教材に戻り、自分の考えを確かめたり、理解したことを振り返ったりできるように、声かけなどをすることが大切である。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
ふしぎ発見シリーズ⑦ 「クロクサアリのひみつ 行列するのはなぜ？」	写真・文／山口 進 監修／久保田 政雄	アリス館
科学のアルバム⑦ 「アリの世界」	著／栗林 慧	あかね書房
どうぶつのからだ① 「どうぶつの目」	監修／増井 光子 編著／ネイチャー・プロ編集室	偕成社
どうぶつのからだ④ 「どうぶつの耳」	監修／増井 光子 編著／ネイチャー・プロ編集室	偕成社
どうぶつのからだ⑤ 「どうぶつの手と足」	監修／増井 光子 編著／ネイチャー・プロ編集室	偕成社
うみのかくれんぼ 「もぐって かくれる」 ハマグリ・メガネウオ・アサヒガニほか	監修／武田 正倫	金の星社
うみのかくれんぼ 「かたちを かえて かくれる」 モクズショイ・タコノマクラ・キメンガニ ほか	監修 武田 正倫	金の星社
おおきな かがく 「このはな だれの？」	監修／堀 浩 写真／内山 晟	ひさかたチャイルド